

巻頭言「一つのインターネットの実践のために」

東西冷戦がベルリンの壁の崩壊(1989)で終結し、ソ連が消滅(1991)すると、世界中で自由な民主主義を謳歌する「一つの世界」になるだろうとの期待が高まった。同時期にインターネットの国際化を推進する Internet Society が設立された。1992年に神戸で開催された国際会議 INET Kobe 1992 は歴史に残る出来事である。当時の熱気の中には、世界中が「一つのインターネット」で接続されるという期待感があった。

その後の国際情勢は複雑である。冷戦が終結しても世界は一つにはならず、分断されている。インターネットは自由でオープンな情報通信を実現するだろうと期待されたが、国家主権がネットワークを厳しく規制している国があり、現状を一つのインターネットと表現するのは躊躇する。ここで冷静に回顧するならば、1990年以前の米国の ARPAnet および NSFNET には AUP (Acceptable Use Policy) という規制があり、商用で利用することが禁止されていた。さらに米国への海外からの接続は個別に審査を受ける必要があった。つまりインターネットという技術に自由でオープンな情報通信が内包されているわけではない。

インターネットは汎用技術であり諸刃の刃である。言論の自由を謳歌するのに活用できる一方で、国家による多岐にわたる統制を実現してしまう。技術サイドが受け身で使われるのを待つだけでなく、我々も進んで考察するべきである。ハーバード大学のダニ・ロドリックは、私たちの世界で次の三つを同時に達成することはできない、どれか二つを選択すると残りの一つは達成できないと主張している。(1) グローバル化(国際経済統合)、(2) 国家主権(国家の自立)、(3) 民主主義(個人の自由)。これを世界経済の不可避なトリレンマと呼ぶ。インターネットはグローバルであるが、情報を規制したい国家と個人の自由を守りたい国民との間で対立が生じる場合がある。

トリレンマからの脱出は難しそうである。ただし、考察の第一歩は現状を正しく認識することにある。

アナログ時代には情報の収集が著しく困難であった。デジタル時代には国家が情報を規制しているとしても、その国の政策を可視化しやすい。インターネットを自然科学の研究に活用することは当然となった。今後は社会科学、さらに人文科学の研究に活用されて人類の進歩に貢献することを期待したい。

2020年1月
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)
理事長 後藤 滋樹



1996, 1997, 1998, 1999, 2000...

[インターネット白書ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2020年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<https://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

✉ iwp-info@impress.co.jp